

道立高等学校の生徒の道内大学への派遣・交流事業（北海学園大学会場）

1. 目的

道立高等学校の生徒を道内大学に派遣し、同大学の留学生との英語による交流や、大学の講義の受講、研究室訪問等を通して、英語によるコミュニケーション力の向上を図るとともに、国際的な視野を育み、海外と積極的に交流しようとする意欲の向上を図る。

2. 主催

北海道教育委員会、北海学園大学

3. 実施時期

令和5年(2023年)6月19日(月)

4. 実施場所

北海学園大学 国際会議場

5. 参加者

全道の道立高等学校等 23校から 30名（1年生2名、2年生15名、3年生13名）が参加

6. 日程

時 間	内 容
9:00-9:10	開会式・事務連絡
9:20-10:40	【ワークショップ 1】 「大学生と考える留学・海外渡航」
10:50-12:00	【ワークショップ 2】 「コミュニケーション能力を高める英語自律学習の工夫 一口語定型表現」
12:00-13:00	昼食
13:00-14:20	【ワークショップ 3】 「カナダ・レスブリッジ大学学生との文化交流ーアルバータ州と北海道を語るー」
14:30-15:10	【ミニ講義 1】 “What is Intercultural Communicative Competence?” 「異文化コミュニケーション能力とは何か？」
15:20-16:00	【ミニ講義 2】 「渡航のすゝめ 外国で暮らし、学ぶことの醍醐味と意味」
16:00-16:10	閉会式・解散

事業の様子

全道各地から高校生が集まり、開会式では、北海道教育委員会からの挨拶や留意事項の説明がありました。参加者たちは緊張した雰囲気の中、しっかりと話を聞いていました。

【ワークショップ1】では、北海学園大学の学生6名が発表者となり、各自の海外渡航での経験を英語で紹介しました。6名の発表を聞いて、色々な渡航先があること、渡航目的が違うこと（語学留学やワーキングホリデー、ボランティア活動など）、留学期間も様々であることを知ることができました。その後、参加者と大学生が5つのグループに分かれ、留学に関する質疑応答が行われました。



渡航先: カナダ・
ハワイ・オーストラリア
カンボジア

渡航期間: 2週間
1学期間、1年間



参加者からは「より留学に対する興味が増した」

「留学までの経緯や事前準備について直接聞くことができてよかった」「たくさんの経験を聞いたことで「不安」が少し「楽しみ」に変わった」などの感想がありました。



【ワークショップ2】では、北海学園大学人文学部の田中教授が「コミュニケーション能力を高める英語自律学習の工夫 - 一口語定型表現 -」と題して高校生向けに講義を行いました。話し言葉、書き言葉の8割は定型表現であり、習得すれば会話がスムーズに進められるということや、効果的な学習方法などを映像や具体例を示しながら説明してくれました。

さっそくグループに分かれ、教わった表現を用いて写真などを見せながら、自己紹介を行いました。参加者は、「日々の英語学習にも活かせるツールや勉強法を教えてもらい、ためになった」

「日常で会話するときの表現をたくさん知ることができた」などの感想を述べていました。



地元の名所や名物を紹介

昼休みは、仲良くなった参加者同士で弁当を食べたり、大学生に交ざって北海学園大学の学食を利用している様子が見られました。（学食はとてもおいしかったという声も聞かれました）

【ワークショップ3】は、カナダ・レスブリッジ大学の留学生9名が加わり、グループごとに文化交流を行いました。『A Hidden Gem（隠れた宝）』と題して、自分の住む街や地域の魅力を1人ずつ英語で発表しました。スマートフォンやタブレットで写真を見せながら、北海道とアルバータ州の類似点や相違点などを話し合いました。最後には、各グループの代表者が、グループ内で話し合った内容を発表し、北海道やカナダについての理解をさらに深めていました。



参加者からは「皆で英語でディスカッションするのがとても楽しかった」「少し難しい部分があったけれど、やっぱり英語をもっと話せるようになりたいと思った」「同じグループの人達の町のことも知ることができ、カナダについても知ることができた」「留学生のお二人が反応を示してくれて、こんな私の英語でも伝わっているんだと嬉しくなった」などの感想がありました。

【ミニ講義1】は、北海学園大学人文学部のブシャー教授（カナダ出身）が「異文化コミュニケーション能力とは何か」と題して英語で講義を行いました。異文化コミュニケーションとは、ただ英語を使えるようになるのではなく、文化の違いや共通点を受け入れ、それに対処していくことが大切だと話されていました。最後はペアになり、自分の考えを共有し合う活動もあり、留学を目指す高校生たちにとって、異文化理解の大切さについて学べる講義でした。



ブシャー教授によるミニ講義



ペアでのコミュニケーション活動の様子

参加者からは「互いの国の文化、習慣を理解し受け入れることが、関わっていく上で一番大切だと思った」「外国の方と交流するにあたって、文化の違いに直面するのは当然だと思うので、そのときにどう対応すべきかを知ることができた」「広い視野を持つこと、そして自分の価値観を押しつけることがないように意識することが大事だと学んだ」などの感想がありました。



牛久准教授によるミニ講義

続く、【ミニ講義2】は、北海学園大学経済学部の牛久准教授が講義を行いました。学生時代の留学経験と、研究のためアフリカで生活したときの出来事を紹介し、外国で暮らし学ぶことの醍醐味や意義をお話しされていました。

参加した生徒からは「自分の中での「ふつう」は他の国や文化の人からすると「ふつう」ではなく、理解されにくいかもしれないと考えと、

なおさら外国で実際に生活して、様々な文化や考え方に触れてみたいと思った」「外国に住むことは、価値観だけでなく、いさかみや悲しみといったことまでも体験できる機会であると感じた」「今の自分の当たり前が変わったり、新しい経験ができるのは留学ならではのと思う」などの感想がありました。

閉会式では、北海学園大学の森下学長が挨拶し、「今日、得た学びや経験が、皆さんの夢を叶え、国際社会で活躍するとききっと役立つと信じています。これからのよりよい国際社会を築く力にして欲しい」とエールを送りました。



森下学長による閉会の挨拶



真剣な眼差しで話しを聞く参加者

プログラム全体を振り返って、参加者からは「進路が似ている友達や先輩と出会えて良かった」「大学のアクセスが良くきれいで広くて、早く大学生になりたくなった」「留学したいという気持ちがとても強くなった」「すごく楽しかったし、さらに英語が好きになった」「留学生の方ともっと英語で話したかった」などの感想がありました。

プログラムへの参加を通して、30名の参加者は、英語力の向上や大学の授業等についての理解の深まりを大いに実感することができました。また、「海外留学」という同じ目標をもった仲間や実際に留学を経験した先輩方との出会いを通して、改めて海外留学に対する意欲を高めるとともに、自らの進路実現に向けて決意を新たにしていました。

ペアでの意見交換



留学生との集合写真



閉会式後の記念写真



グループ代表による意見発表



ペアでの意見交換



ペアでの意見交換



留学生との交流